

伊達藩主は、御典医と武士の警護と一緒に旅をした。彼らが瑞巖寺を訪ねたときに御典医はこの部屋で待機した。佐久間左京（1581-1658）の障壁画には白、黄色、ピンクの菊が描かれている。菊は元来、薬草として中国から日本に持ち込まれ、領主の医師の控え室に描くには適切なモチーフとされた。